



大・タイガー立石展

TIGER Tateishi: The Retrospective

《富士のDNA》 1992年 courtesy of ANOMALY

POP-ARTの魔術師

会 期 2021年4月10日(土)ー7月4日(日)

開館時間 10:00ー18:00(金・土曜日は20:00まで) ※入場受付は閉館の30分前まで

休 室 日 5月6日(木)、5月24日(月)、6月7日(月)

観 覧 料 一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)、小・中学生、高校生無料

☆ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18時以降は観覧料半額 ☆本展チケットで、5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:32295)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて4月9日まで販売(4月10日以降は当日券販売)。

主催 千葉市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会／協賛 ライオン、DNP大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
協力 ANOMALY

※館内に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。

・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。 ・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒の徹底にご協力ください。

※内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

概要

絵画、陶彫、マンガ、絵本、イラストなどのジャンルを縦横無尽に横断しながら独創的な世界を展開した立石紘一、ことタイガー立石、こと立石大河亜(1941-98)。

1941年12月、九州・筑豊の伊田町(現・福岡県田川市)に生まれた立石は、大学進学のために上京。63年の「読売アンデパンダン」展に出品し、翌年には中村宏(1932年生)と「観光芸術研究所」を結成。時代や社会を象徴する人物やイメージなどを多彩に引用して描かれたその作品は、和製ポップ・アートのさきがけとして注目を集めました。65年からは漫画も描きはじめ、「タイガー立石」のペンネームで雑誌や新聞にナンセンス漫画の連載をもつまでになります。60年代末から多くの子どもたちが口にした「ニャロメ」ということばは赤塚不二夫(1935-2008)と交流があった彼の造語でした。

マンガの制作が多忙になった1969年3月、ミラノに移住。のべ13年にわたるミラノ時代は、マンガからヒントを得たコマ割り絵画を精力的に制作する一方、デザイナーや建築家とのコラボレーションで数多くのイラストやデザイン、宣伝広告などを手がけています。

1982年2月に帰国し、85年から千葉を拠点に活動します。90年以降は絵画や陶彫作品を「立石大河亜」、マンガや絵本を「タイガー立石」の名前で発表しました。

立石の作品はどの時期のものであっても、さまざまなきごとや観念が地層のように積み重なっています。このため、「見る」だけではなく「読む」ことによって、作者がつくり出した世界だけでなく、わたしたちの思考の回路も多次元にひろがる点に大きな特徴があるでしょう。

立石は1998年4月に56歳という若さでこの世を去りましたが、没後20年を過ぎ、生誕80年をむかえる今年、約200点の作品・資料によってその多彩な活動をふり返ります。

タイガー立石略歴



- 1941年 12月20日福岡県に生まれる（本名：立石紘一）
- 1964年 中村宏とともに「観光芸術研究所」設立
- 1968年 タイガー立石に改名。この頃から漫画家として活動
- 1969年 イタリア・ミラノへ渡る。「コマ割り絵画」の誕生
- 1971年 エツレ・ソットサスの知遇により、オリベッティ社で仕事を得る
- 1982年 帰国、立石大河亞に改名。絵本、絵巻物、陶彫を発表
- 1985年 千葉県夷隅郡夷隅町に転居
- 1995年 千葉県養老溪谷に移る
- 1998年 4月17日没（享年56歳）

見どころ

■過去最大規模の個展。200点を超える作品が一堂に！

漫画、絵本、イラストレーション、絵本、立体とさまざまな領域を横断したタイガー立石。本展は17歳の頃描いた作品から遺作までを紹介。なかでも、明治、大正、昭和という日本近代を総括する大画面三部作や、現代のグラフィティにも通じる《立石紘一のような》、全長約9mの絵巻物《水の巻》は必見！200点を超える作品・資料が一堂に会す、過去最大規模の個展となります。

■いくつか見つけられる？作品に引用された元ネタたち

サント・ビクトワール山を模したような郷里の山、古賀春江《海》のポーズを取る美空ひばり…。タイガー立石の絵画には、セザンヌやダリ、キリコ、高橋由一、岸田劉生、古賀春江など古今東西の美術史上のモチーフや、歴史上の著名人である毛沢東、西郷隆盛、三島由紀夫、松下幸之助らが画中に登場するユーモラスな世界が広がります。さまざまな引用から、絵画を「見ること」、「考えること」の楽しみを堪能できます。



《昭和素敵大敵》1990年 田川市美術館蔵

■一世を風靡した「ニャロメ」の元祖！ナンセンスな漫画世界

1965年頃から本格的に漫画を描きはじめ、『週刊アサヒ芸能』や『少年サンデー』で活躍していたタイガー立石。交友のあった赤塚不二夫の漫画に登場した「ニャロメ」もこの頃立石によって作られた言葉でした。その後、漫画のコマ割りをそのまま絵画に描く独自の「コマ割り絵画」が誕生。時空間さえもひっくり返るような立石独自の世界が現れました。本展では、漫画原画も多数展示、現代の漫画家やサブカルチャー界からも注目される「視覚的ショート・ショート」ともいべき摩訶不思議なタイガー立石ワールドをお楽しみください。



「コンニャロ商会」より原画 1967年 courtesy of ANOMALY

展覧会関連イベント

オンラインワークショップ「おうちでポーズを決めて、ドット 絵風なデジタル必殺技カードにしよう！」

受付期間:5月1日(土)~5月30日(日)

対象:どなたでも/先着40人/参加無料

ワークショップ「美術館でポーズを決めて、ドット絵風な必 殺技バッジをつくろう！」(当日受付)

開催日:6月19日(土)

時間:1回目10:00~12:00/2回目14:00~16:00

会場:4F事務室前ロビー、市民アトリエ1・2

対象:小学生以上/各回先着5人(各回の最初に整理券を配布)/参加費:500円

※詳細は美術館ホームページをご確認ください

市民美術講座

「極私的タイガー立石論」

5月22日(土)14:00-(13:30開場予定)

講師:藁科英也(当館上席学芸員)

「サトウ画廊コレクションから見るタイガー立石」

6月26日(土)14:00-(13:30開場予定)

講師:森啓輔(当館学芸員)

いずれも11階講堂にて/定員60人(事前申込制)/聴講無料

※申込方法など詳細は美術館ホームページをご確認ください。

記者レクチャー・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

4月9日(金)15:00-17:00(14:30開場)/8階展示室にて

※当日は企画展示室休室のため、会場へのエレベーターは14:30より稼働します

参加ご希望の方は、同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。

同時開催

「千葉市美術館コレクション選 特集 サトウ画廊コレクションより—タイガー立石とともに」

4月6日(火)—7月4日(日) 5階常設展示室

[休室日]第1月曜日 [観覧料]一般300円 大学生220円(企画展ご観覧の方は無料)

「つくりかけラボ03 武藤亜希子|C+H+I+B+A ART シェアばたけ」

4月15日(木)—7月4日(日) 4階子どもアトリエ

[休室日]第1月曜日 [観覧料]無料

次回展予告

2021年7月13日(火) 「平木コレクションによる 前川千帆展」(仮称)
—9月20日(月・祝) 「江戸絵画と笑おう」

2021年7月14日(水) 「つくりかけラボ04
—10月13日(日) 飯川雄大|デコレータークラブ—0人もしくは1人以上の観客に向けて」



前川千帆《屋上庭園》昭和6年(1931) 公益財団法人平木浮世絵財団蔵

広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1.《富士のDNA》1992年 courtesy of ANOMALY



2.《Consciousness about Humanbody》1975年 courtesy of ANOMALY



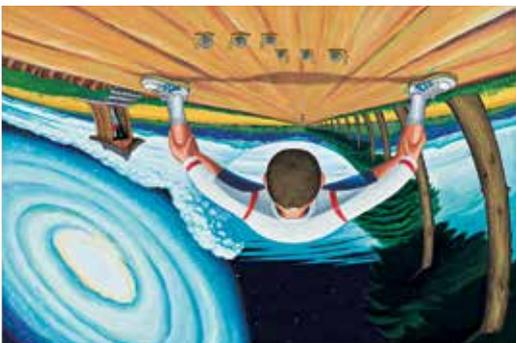
3.《立石絃一のような》1964年 高松市美術館蔵



4.『とらのゆめ』より原画 1984年 個人蔵



5.《昭和素敵大敵》1990年 田川市美術館像



6.『さかさまさかさ』より原画 1986年 個人蔵



7.『コンニャロ商会』より原画
1967年 courtesy of ANOMALY



8.《TARO》1996年
個人蔵(青森県立美術館寄託)

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行

FAX : 043-221-2316

E-mail : isono@ccma-net.jp

貴社名 :	媒体名 :
ご担当者名 :	発行予定日 :
TEL :	発行部数 :
FAX :	定価 :
Email :	掲載予定コーナー名等 :
画像到着希望日 : 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例: 5cm 四方、など)</small> :

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 《富士のDNA》 1992年 courtesy of ANOMALY
2. 《Consciousness about Humanbody》 1975年 courtesy of ANOMALY
3. 《立石紘一のような》 1964年 高松市美術館蔵
4. 『とらのゆめ』より原画 1984年 個人蔵
5. 《昭和素敵大敵》 1990年 田川市美術館像
6. 『さかさまさかさ』より原画 1986年 個人蔵
7. 「コンニャロ商会」より原画 1967年 courtesy of ANOMALY
8. 《TARO》 1996年 個人蔵(青森県立美術館寄託)

■ 「大・タイガー立石展 POP-ARTの魔術師」 プレゼント用招待券申込 (ご希望の場合はチェックをつけてください)

5 組 10 名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先
ご住所 : 〒

問い合わせ先

千葉市美術館

〒 260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

広報担当 : 磯野 愛

Tel. 043-221-2311 (代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail. isono@ccma-net.jp

HP. <https://www.ccma-net.jp/>

大・タイガー立石展

TIGER Tateishi: The Retrospective

POP-ARTの魔術師

記者レクチャー 4月9日(金) 15:00~17:00 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。
展示会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。
※当日は企画展示室休室日のため、会場へのエレベーターは14:30より稼働します。

参加ご希望の方は下記項目にご記入の上、

FAX: 043-221-2316 または **E-mail: isono@ccma-net.jp**

までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail

問い合わせ先 広報担当 磯野 愛
Tel. 043-221-2313 (直通)

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
HP. <https://www.ccma-net.jp/>